

平成 30 年度第 2 回 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 31 年 1 月 25 日(金) 〈開会：13 時 10 分、閉会：13 時 50 分〉

2 場 所 県庁 3 階第 1 会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教育長 鍵本 芳明
教育委員 上地 玲子 中島 義雄 松田 欣也
梶谷 俊介 田野 美佐
総社市立総社中学校長 加賀 英範

4 協議事項に係る出席者の発言

【知事】

皆様、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の会議のテーマは、「学力向上」についてであります。学力向上につきましては、新プランにおいて「教育県岡山の復活」を最重点戦略に位置付け、各種施策に取り組んできたところです。昨年 4 月に実施された全国学力・学習状況調査では、小・中学校とも大変厳しい結果となっております。この厳しい結果をしっかりと受け止め、子どもたち一人一人の状況に応じて早期につまずきを解消し、その学年で身に付けるべき学習内容を確実に定着させる必要があります。特に中学校においては、教員の意識改革、生徒のやる気を引き出すための授業改善や補充学習、家庭学習指導のさらなる徹底が不可欠と考えているところであります。

本日は、授業改善や家庭学習の習慣化に向けた効果的な取組により成果を上げている、総社中学校の加賀校長にもご出席いただいております。皆様方には、学力向上に向けた課題や来年度の取組等について、忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、現状とこれまでの取組等について、説明をお願いします。

【義務教育課長】

資料 1 ページをご覧ください。

まず、学力状況のうち、上段の小学校の平均正答率の推移については、平成 26 年度以降、順調に全国平均に近づき、上回る状況もあったところがございますが、今年度は下がっている状況でございます。その下の中学校におきましても、同様に少しずつではございましたが上昇傾向にあったものの、今年度は下がるとともに、平成 26 年度以降、これまでずっと全国平均を下回る状況が続いております。

次に、下段の学習状況でございます。県教委として、最も課題意識を持っております

のが、中学校3年生の家庭学習時間でございます。四角囲みのグラフの通り、家庭学習を1時間以上している生徒の割合が、全国では小学校6年生のときの63%が中3になると71%に増えている一方、本県におきましては、小学校6年生の66%が中3になると60%に減ります。つまり、小学校のときよりも中学校のときのほうが家庭学習をしていないという、全国的に見て厳しい状況となっているところでございます。

裏面の2ページをご覧ください。

こうした結果を踏まえ、8月以降でございしますが、家庭学習時間で成果を上げている学校の取組を収集、検討し、上段四角囲みの中にある取組を好事例の一つとして、県内中学校に普及を始めたところでございます。

また、11月に全小・中学校で今年度身に付けるべき学習内容がどの程度身に付いたかを、過去の全国調査問題で調査をし、課題のあった内容を年度末までにはしっかりと復習し、身に付けた上で次の学年に進級するよう、学校に対し指示しているところでございます。

現状とこれまでの取組につきましては以上でございます。

【伊原木知事】

では、加賀校長先生に発表をお願いします。

【加賀校長】

総社中学校の校長の加賀と申します。よろしく申し上げます。

それでは、本校の取組を「望ましい学習習慣と基礎学力の定着をめざした取組」ということで紹介させていただきます。

まず、総社中学校は、総社市西部を学区にしております。全校生徒239名、学級数は9クラスという中規模校であります。生徒の特徴は、純朴で明るく落ち着いた学校生活を送ることができています。また、学校行事等には積極的に取り組む活発な生徒が多く、野球部は昨年、今年度と、2年連続で秋の県大会に優勝するなど、部活動も非常に盛んであります。ただ一方で、確かな学力を身に付けさせるという課題もあり、家庭での学習習慣の定着に力を入れて取り組んでいるところです。

ご覧の資料が、平成29年度の全国と県の学力・学習状況調査の結果です。まず、上の段が県の平均正答率との差ということで、赤字が県の平均を下回っているもの、黒字が上回っているものを表しています。見ていただくと分かりますように、1年生は国語も数学も県平均並み、2年生、3年生の国語と3年生の数学は、県平均を下回っている状況でした。

続いて下の段、平日の学習時間です。1時間以上していると回答している生徒の割合については、1年生が県平均を下回っているという結果でした。これを踏まえて、国語A、数学Aというところの、A問題というのは、基礎学力を問う問題でありますので、本校の生徒は基礎となる学力が不足しております。また、2、3年生は、家庭学習はできているものの、それが基礎学力にはなかなか結び付いていない。そして、1年生は家

庭学習の時間が不足していることが課題として見えてきました。

そこで本校では、まず分かる授業の実践と家庭学習を結び付けていくこと、それから生徒が家庭学習に取り組みやすくなる環境を整えること、そして、授業でつまづいている生徒の支援をしていくことに重点を置き、幾つかの取組をしていくことにしました。

まず、取組の一つ目として、授業については、「岡山型学習指導のスタンダード」に則った授業スタイルを徹底しております。「めあて」と「まとめ」「振り返り」を大切にすること。そして、授業の中で協同学習やペア学習の場面を設定すること。そして、前の授業のポイントを復習する小テストや単元テストを導入し、基礎学力の定着を図っていくという方針で授業を進めております。そして、学校全体で「分かる授業」を目指して授業改革に取り組んでいる状況です。

それから、取組の二つ目として、家庭学習の習慣化について取り組んでおります。

まず一点目は、新入生に対し、家庭学習のしかたを説明した学問のすすめというものを配布しています。二点目に、課題を見える化する工夫として、写真にある課題一覧ボードを教室の背面黒板に設置しております。教科ごとに、課題の内容、提出日等を記入できるコーナーを作り、いつでも課題が目に入り、意識できるようにしています。そして三点目は、土日の家庭学習を計画的に進めるための週末課題表を配布しています。

この週末課題表は、資料に載っているペーパーです。土日にしなければならない5教科の宿題内容、提出日を示した用紙で、金曜日の帰りの会までに教科担任がデータとして打ち込み、それを生徒一人一人にペーパーとして配ります。生徒は、それぞれの宿題にかかった時間を記入し、月曜日に担任に提出するというシステムにしております。これにより、生徒に土日の課題を意識させ、計画的に課題に取り組ませることができ、生徒が、家庭学習にかけた時間を把握することができます。そして、保護者に見てもらい、宿題への声掛けをしてもらうなど、家庭での協力体制をつくることのできるのではないかと期待し、昨年度より取組を始めています。

なお、生徒がこのペーパーに記した、宿題にかかった時間等の集計担当は、業務アシスタントに全て任せております。

この週末課題表の成果についてですが、昨年3月に1、2年生対象にアンケートをとりました。まず、「週末課題表は役に立ちましたか」という問いについては、ほとんどの生徒が肯定的に捉えてくれました。次に、「計画的に学習できましたか」という問いについては、8割以上の子が「できた」と答えてくれました。そして、保護者のかかわりについては、半数の保護者が気にしてくれていたかなという結果になっています。さらに、家庭の協力を呼び掛けるため、今年度はPTA総会でこの取組を紹介しました。

そして、宿題にかかった時間等についての集計を見ると、1学期から3学期にかけて、どの学年も家庭学習の時間が伸びたという結果が出ました。

続いて、取組の三つ目として、放課後学習のほうにも力を入れております。放課後学習の対象者は、宿題未提出者や授業中の小テスト等で基準点に達しなかった生徒です。

目的として、一点目は授業・家庭学習で必要な基礎学力が定着しきれなかった生徒への補充ということがあります。二点目としては、家庭学習の習慣化への支援という意味

合いがあります。どうしても放課後ということになりますと、中学校の場合、部活動との兼ね合いが問題になりますが、本校の場合、部活動よりもこの放課後学習を優先するということが部活動の保護者会等でも申し合わせをしており、放課後学習をさぼって部活に参加する生徒があれば顧問からも指導するという体制ができております。そういうこともあり、生徒も放課後学習優先の原則をよく理解しており、エスケープする生徒はほとんどおりません。

本校の基礎学力と家庭学習習慣の定着を図る仕組みを図式化してみますと、まず学校では分かる授業を工夫し、その学習内容を振り返る課題を出します。そして、次の授業でその確認テストを実施し定着を把握します。定着が不十分な生徒は、放課後学習でさらに補充していくというサイクルを設けております。基礎学力の定着を図る上で、家庭学習の習慣は重要で、それを促進するため、課題一覧ボードで週末課題一覧表の取組を工夫しているというのが本校の取組の特徴と思っています。

次に、昨年一年間取り組んだ「成果と課題」でございます。資料の中の赤字で示しているものが、平成30年度の全国・県の学力・学習状況調査の結果です。全て、県平均との差をポイントで表しています。右側の黒で示したものは、1学年前の状況を県平均との差で表しております。

まず、県の平均正答率との差を見ますと、現在の3年生の国語Aについては、2年生のときと比べると明らかに差が縮まっております。そして、現在の2年生については、国語、数学とも、1年生のときよりも県平均を大きく上回る結果を出してくれています。それから、平日の家庭での学習時間については、1時間以上学習する生徒の割合は、2年生、3年生とも大きく伸びておりますし、また計画的に学習できていると答えてくれている生徒も、県平均を大きく上回ることができました。このことから、本校での取組が計画的に学習に取り組む習慣を身に付けることに効果的であったということと、授業でつまづいた生徒を補充学習で救うことになり、基礎学力の向上にもつながったと考えられます。

平日1時間以上家庭学習をする生徒の割合を、県平均と比較してグラフ化してみました。本校の3年生が1年から3年にかけて、1時間以上家庭学習する生徒の割合を青、2年生を緑色、そして県平均を赤で示しております。本校の3年生、2年生についても、それぞれ昨年よりも伸びている状況です。ただ、一方で課題もあります。実は本校では、国語、数学とも活用力・応用力、一般にB問題と言っているところが弱いというところがあります。現在、その活用力や応用力を育成していくため、主体的、対話的で深い学びの実現とともに研究を進めている状況です。

以上が、本校における学力向上に向けての取組であります。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

この週末課題表は、どれぐらい前から取り入れられているのですか。

【加賀校長】

一昨年春、ゴールデンウィーク明けぐらいから始めました。

【伊原木知事】

先ほど、平成 29 年度と 30 年度で点数がこれだけ変わりましたよというあたりは、本当にこの週末課題表を含めたいろんな取組がまだできていなかった、定着していなかった頃と、取組の成果がしっかりと出ている頃の差ですね。

では、こういったプレゼンテーションも踏まえまして、学力向上についてこういった取組に力を入れていくべきかなど、皆様にご意見をお聞かせいただけたらと思います。

【教育委員】

ありがとうございました。

この課題一覧ボードの取組は、すごく良いなと思いました。中学校になりますと、各教科の先生がそれぞれ課題を出されますから、量が分からないですよ。やたら英語の先生の課題が多かったり、じゃあ数学も負けずと出したりすると、結局量が多すぎて生徒さんができなくなってしまうこともあるのですが、このように一覧で出ると、お互いに量を確認しながら調整するようになるのかなと思います。

1つ聞きたかったのは、週末課題表を「金曜日の午前中までに各教科担当が打ち込む」とあるのですが、遅れたりすることはないですか。皆さん、きちんと守られるのですか。

【加賀校長】

大体打ち込んでくれているので、遅れることは今まではあまりなかったと思います。

【教育委員】

量の調整なんかも、お互いにどうしようという話などもするのでしょうか。

【加賀校長】

そのあたりは、教員側にも非常にいい効果がありました。最初は、宿題量は教科によってかなり差がありましたが、ボードが教室の見えるところにありますので、教員同士が見て、情報交換しながら調整することで、子どもたちがかける時間も大体均等になりつつあるという状況です。教科間の宿題量の差は、本当になくなってきたと思います。

【伊原木知事】

かかった時間というのも、ここへちゃんと書いてありますから。

【教育委員】

校長先生、ありがとうございます。とても良い取組をされておられて、私たち教育委員会や各市町村教育委員会は、それぞれ学校ごとにいろいろな取組をされて、例えば学

力の問題であれば、我々の側からすると全国順位を少しでも上げていくためにどうしていいかというような目標を立てて取り組んでいます。そこで、今の子どもたちの実情を教えてほしいのですが、課題として家庭学習の時間が短いといったときに、子どもたち自身のそれぞれの目標設定というのは、現状はありますか。例えば、学校全体の目標が家庭学習1時間として、私は2時間にしようとか。それに向かって、子どもたちがチャレンジして努力していくなど、分かりやすいツールがあれば、子どもたちの学力向上にもつながると思うのですが。

【加賀校長】

日々のそういう目標というのは、なかなか難しいところがあると思います。週末課題表について、生徒たちの声を聞いたところ、同じような宿題が毎週出るわけですが、例えば国語では、この間は30分かかってしまった。そこを、今回は20分でできたとか、時間の効率化ができたということについては、非常に喜びを持っているという話を聞くことができました。ですから、週末課題表が出たら、今度はこれを何分で片付けてやろうというような目標は、生徒たちの中にできつつあるのかなと思います。

【教育委員】

子どもたちの学習に対するやりがいなどを高めていく必要があるのではないかなと私は思っています。それで、少し聞かせていただきました。

【教育委員】

校長先生、ありがとうございました。

週末課題表というのは、すごく良い取組だと思います。中学生というのは、結構それぞれ個人が管理していたので、結局先生方も出しっぱなしで、そのまま提出物が出てないという状態があったのを、これをすることによって子どもたちも把握できると思いますし、保護者も見られるので、とても良いことだと思います。

それでお聞きしたいのが、家庭学習で未提出の生徒さんがおられたところ、これをするによってどれくらい改善していったのかということです。先生が週末課題表を見ることによって、結局は担任の先生も、それぞれ顧問の先生も、誰が何の提出物が出てないというのが把握できるので、子どもたちとコミュニケーションがだんだん取れるようになったと思います。子どもによっては、先生に聞くと「こんな問題も分からないのか」というようなことを言われたりして、もう聞けなかったという実際の話も聞いたことがあります。そういう中で、これをするによって先生と生徒との距離がどう縮まっていったのですか。

【加賀校長】

やはり、放課後子どもたちと接する時間が増えますので、人間関係は確かに良くなっていると思います。特に、授業等で分かっていない子を個別に指導していくということ

で、分からないところを丁寧に教えていく。逆に、子どもたちは、教えてもらって分かったという喜びを得ることができる。そういうところでは、人間関係は本当に良い方向に向かっていると思います。

【教育委員】

非常に成果が出ているようですが、実際はどうですか。クラスによって、上手く回っているところや回っていないところがあるのではないかなと思います。おそらく、私たちの立場からすると、こういうふうのできるのであれば全部の学校でやればいいじゃないかとなるのですが、実際にやっていく中で、この辺が課題だというところがあれば教えてください。例えば部活動より放課後学習を優先するといっても、中学校の場合だと教科がいろいろですね。ですから、逆に言うと、生徒によっては、この教科はできているけどこの教科はできていないと。そこを放課後学習で先生がどうフォローしながらやれるのか、なかなか難しさがあるのではないかなと思うのですが。

【加賀校長】

まず、放課後学習の実施については、各教科担当の先生にお任せしています。本校では大体、水曜日は全ての部を休みにしているの、その日に集中しがちです。でも、各教科で何曜日はどの教科に使用という形の打ち合わせをしながらやっているの、大体宿題を出せない子とか、残らなければいけない子はどの教科も重なってくるということがあるので、その辺の調整は各学年団の教科担任でやってもらっています。

できるだけ、子どもたちが参加しやすいようにということで、「放課後学習に来なさい」とか「今日居残りする人」というような感じの貼り出しのような形より、「今日の放課後、学習会への招待状を渡します」という形で、できるだけ子どもたちのハードルを低くする工夫をしてくださっています。

ただ、やはりおっしゃるように、教科によっては放課後学習の頻度というのは違います。数学とか国語とかは結構多いですが、社会や理科は頻度が少ないとか。そういうところは単元でまとめてやろうというふうな形をとっています。

【教育委員】

放課後学習は、クラス単位なのか、それともクラス横断的にあるのですか。

【加賀校長】

横断的に、学年まとめてやるという形になります。

【教育委員】

そうすると、クラスとはまた違う生徒さんの並びになるわけですね。

【教育委員】

素晴らしいお話、ありがとうございました。

「基礎学力を定着するサイクル」とありましたが、分かる授業と家庭学習と、それから確認をして、さらにちゃんと補充を行っている。やるべきことをきちんとそれぞれやられて、結果を出されているという感じがします。たぶん、やるべきことというのはある程度決まっていて、それをいかに徹底できるかだと思います。例えば、それをちゃんと徹底された結果として成果が出たということだと思います。やはり、これは各学校で、やるべきことというのは毎回言われることは一緒だと思うので、やっぱりきちんとこれを徹底することも重要だということをお話を聞いて感じました。

そうは言っても、確かに先生によってできる、できないということがあると思います。その辺はどういうふうにフォローされているのですか。先生によって、できる、できないとか、実際はあると思うのですが。その辺のフォローはどのようにされていますか。

【加賀校長】

例えば、3年生の英語はかなり学力的にてこ入れが必要なのですが、ただ、本当に英語の先生は忙しい先生で、なかなか放課後はできない。だったら、長期休業中にまとめてやろうということで、長期休業中に3年団の先生がみんな出て英語の勉強を教えています。放課後ではない補充学習的な時間を設けてやってくれたりもしています。やはり、先生の持っている分掌等により、なかなかできづらい教科というのもあります。

【教育委員】

もう一点、B問題が今弱いということで、どういうことを今後はやっていかれる方針ですか。

【加賀校長】

活用力・応用力、特に本校では文章を書く力が非常に弱いということがあります。今、大切にしていこうとしているのが、授業の最後にまとめをしていますので、そこで振り返りをしたりまとめをしたりするところで、子どもたちに文章を書かせよう。例えば、この文字を使ったまとめにしようとか、接続詞を入れて2文で書こうというふうな工夫をしながら、書く力を高めていこうということをやっています。

それから、授業の中で協働学習を入れていこうということをやっているのですが、その中でもしっかり教員の側から、いろんな考え方が出てくるような質問を工夫した協働学習をしていこうとしています。単なる教え合い学習の協働ではなく、子どもたちの意見や考えを引き出す、そういう協働学習を工夫していこうという取組を今考えています。

【教育委員】

ぜひ、よろしくお願いします。

【加賀校長】

どうもありがとうございます。

【教育長】

取組につきましては、ありがとうございました。

県教委としては、今の放課後といいますか、家庭学習の時間が課題なので、全県の学校について上手くいっている学校とそうでない学校を調べ、その中の一つに総社中学校があったわけです。要は、総社中学校の例を、さっき全部の学校でやったらいいじゃないかという話もあるわけですが、可能な限り横展開をしていこうということで、パターン化をしながら進めているところです。

我々がいいなと思ったことが2つあります。一つ目は、サイクルできっちり授業と授業の間を宿題でつないでいくということです。当たり前と言えば当たり前ですが、小学校では一人の先生がどの教科もやっているの、ここがきっちりできています。二つ目はフォローアップです。小学校でやると、給食の後ちょっと呼んだり、放課後ちょっと隣に座らせてということが割合自然にできているのですが、中学校になると教科担任制になるので、意外とそのフォローアップができていないということがあります。拝見させていただいたところでは、サイクルをきっちり回しているということと、分からなくなった子どもたちが出た時点で、早い段階で放課後学習というフォローアップにつなげていっているというところは、とても大事なのではないかなと思います。

岡山県は、家庭学習時間が小学校では一番高いのですが、中学校でどんどん落ちていくというのは、やっぱり諦めている子どもたちが増えているのではないかなと思います。ということは、やっぱり分からなくなった時点で早いうちに救っていくということが、とても大事なのではないかなということを私たちも考えています。サイクルとフォローアップというところが大きなポイントなのかなと思います。今、学校でおできになっているようなことを、今度は他の学校でもやっていこうとした場合、校長先生のお考えとして、こういうところが課題とか、大事なポイントではないかなと思われるのはどんなところですか。

【加賀校長】

中学校の場合、どうしても子どもたちは部活動への興味、関心が非常に強いです。そのため、結局放課後学習に出る子、出ない子というのが出てきてしまうのですが、その点については、職員が意思統一して組織で動いていく体制をつくるのが、一つ大きなポイントになってくるかなと思います。

【教育長】

その辺は、学校で最初に取り組まれるときも、難しさとか、意見はいろいろあったのですか。

【加賀校長】

私の場合、非常に良かったのが、前任校長が意思統一といいますか、組織づくりをしてくださっており、放課後学習ももう始まっていて、軌道に乗っていたというのは非常に良かったと思います。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

主に、加賀校長の取組に対する質問ということで、我々は勉強になったと思います。学力向上ということで、今学力がなかなか伸び悩んでいる理由の一つが、岡山県特有の家庭学習時間が短さ、特に中学生の家庭学習時間が全国平均よりもずっと短い。自分たちが小学生だったときよりも短いと。このことについてどうすべきか、もしくは今の教育長の取組に対する何かご意見等がありましたらお願いします。

【教育委員】

家庭学習は、自らやりたいと思うかどうか大きいのだろうなと思います。どういうふうな動機付けができるか。そのためにも、分からないままだと家庭学習はできませんから、解け始めると面白くなって続くのかもしれませんが、そこら辺のレベル間とのバランスがあるのかなと。もしかしたら、宿題とか課題の出し方も、生徒の理解度に応じた違うものを出すようなことも、ありかもしれませんね。

【伊原木知事】

そうですね。自分にとっても、分からないものはつらいですし、あまりにも簡単すぎるものも、逆の意味でつらいですね。

【教育委員】

私がさっき少しお話しさせてもらったことで、家庭学習の、自分の中で目標にできるようなことに対する取組をしていかないといけないなと思いました。今は、その初歩的なところで、家庭学習がきちっとできるようにしないといけないですし、本人がその意欲に欠けてしまうと、なかなか良くはならないと思います。私も今大きな課題に向かっていて、どんな取組をすればいいのだろうかというのはあります。

【伊原木知事】

家庭学習は、習慣にするかどうかということが大きいときに、毎日できるとそんなにつらくないのに、何日か空けてしまう、もしくは毎日課題がないと、かえって定着がしづらいつらいとかがつらいというのがあるそうです。家庭学習についても、ドリルが毎日あったら、もうしょうがないな、百ます計算だ、みたいな形でやるのかもしれませんが、あるときはあるし、ないときはないということが、かえって定着を妨げている面があるのかもしれない。これぐらいのボリュームの宿題は、もうあるのが当たり前となったほうが、

かえって習慣化しやすいのかもしれないですね。

もう一つは、大体曜日でボリュームが決まっていると対応しやすいのかもしれないということです。できれば毎日同じような、もしくは少なくとも曜日によって大体予想がつくと、習慣化はしやすそうな感じですね。

先ほど凡事徹底というお話がありました。凡事徹底をしやすくする取組が、総社中学はなかなか優れているなど私は思います。頑張る学校の取組でも、一番多く出てきた言葉が凡事徹底で、我々は別に魔法みたいな取組は必要としていないわけで、一日1時間なら1時間、2時間なら2時間、きちんと当たり前のように取り組んでくれるためには、何が必要なのかということを考えていくにあたり、本当に良い取組も幾つかの学校で成され、かつまた成果として出ていますから、ぜひ横展開してほしいですね。

【教育長】

やっぺいこうと思います。

【伊原本知事】

どうもありがとうございました。本当に皆様方の期待に沿う良い仕事をそれぞれの学校でやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。今日はどうもありがとうございました。